

○当日の主な流れ

- ・委員長に日本港湾協会の大協理事長が選任され、議事が進行された。
- ・港湾の主な4つの機能（①物流・産業、②環境・エネルギー、③人流・賑わい、④安全・安心）ごとに課題や今後の方向性等について議論。

日時：令和6年5月27日（月）14時～16時

場所：茨城県庁9階講堂

議事次第

1. 開会
2. 港湾管理者挨拶
3. 委員長選任
4. 委員長挨拶
5. 議事
 - 1) 資料説明
 - 2) 質疑応答
6. その他議事
7. 閉会

※委員・オブザーバー：25名中、20名出席（WEB・代理含む）



○主な意見

全般

- ・港湾労働者不足が課題であり、これを念頭においた港づくりをお願いしたい。
- ・物流、環境、賑わい、防災等の観点をバランスよく取り入れる必要がある。

物流・産業

- ・気象、海象の影響を受けやすく、滞船等が発生している。利用者の使い易い港を目指してもらいたい。
- ・高速道路との直結により貨物が伸びており、立地企業による港湾利用は更に進むと思われる。
- ・港湾利用が増加する一方で、岸壁や産業用地等の施設不足が課題。
港の発展には、利用促進とあわせた企業立地が重要と考える。
- ・限られた労働力を最大限活用する方策として、高度化した輸送体系の構築が重要と考える。
- ・埠頭内の貨物混在や混雑のため、ヤードの確保や見直しなどを含めた荷役の効率化等が必要。

環境・エネルギー

- ・カーボンニュートラルに向け、エネルギー取引が大きく変わり、港湾の荷動きが変わってくる。
次世代エネルギーのサプライチェーン構築が重要と考える。
- ・脱炭素化と経済成長の両立を目指すGXの関連事業を展開する企業の立地を推進することが重要と考える。

人流・賑わい

- ・人流、賑わいのため、インバウンド需要等をしっかりと受入れるための機能の強化が必要。
- ・港湾背後の地域も含めて今後の土地利用や施設連携、コンテンツの充実などについて検討してもらいたい。

安全・安心

- ・港湾施設の計画的な維持管理をお願いしたい。
- ・茨城港は外洋に面していることから、長周期波やうねりへの対策も含めて検討する必要がある。
- ・将来的な海面上昇や台風の強大化等にも対応できる安全安心な港づくりが重要と考える。
- ・内陸部のみでなく港湾の貨物も防護できる防災能力があるとよい。
- ・東京湾が被災した際は、茨城港が代替港の1つとなるため、被災時にどのように貢献できるのかを検討いただきたい。

